

01 HIV検査のハードル（HIV感染者等）

5 （ナレーター）皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、岡澤アキラがお届けします。

毎年12月1日は、「世界エイズデー」です。今日は、HIV検査について、皆さんと考えてみたいと思います。

10 NPO法人を母体とする「福岡コミュニティセンターHACO」では、一年前から自宅で簡単にできるHIVの検査キットを配布しています。期間限定ですが、HACOに取り来た方に無料で配ったり、今年はインターネットでも申し込みできるようにしました。

15 この取り組みの背景にはコロナ禍の影響もあります。HIVの検査を行っている保健福祉センターが休みになることも多く、「定期的に受けていた検査が受けにくくなった」という声が聞かれていたそうです。また、令和2年に福岡市で新規感染した35人のうち、エイズを発症していた9人全員が、それまで検査を受けていなかったという実情もあります。ただでさえ高いHIV検査のハードルを、少しでも下げて早期発見につなげたい。郵送検査キットの配布には、そんな願いが込められていました。

エイズは、発症する前に感染を発見できれば治療の道もあるのに、多くの人が検査に踏み切れないのはなぜでしょうか？日頃からエイズの予防啓発に働きかけているHACCOの代表・船石翔馬さんは、検査のハードルは二つあると言います。

【船石さん役】一つは、病気に対する自分自身の恐怖です。治療が進歩した今、エイズは「死の病」ではないのに、検査への不安から、発症するまで気付けないことがあります。

もう一つのハードルは、周囲の差別や偏見の目です。匿名の検査とわかっていても、顔見知りには、周囲の理解や人もいまず。安心して検査を受けるためには、周囲の理解や配慮も必要なのです。たとえ陽性であつても、「早く見つかつてよかつたね」と病気を理解してくれる人や、HACCOのような居場所があることも大事だと思います。

(ナレーター) 周囲の偏見や心ない言葉が怖くてHIVの発見が遅れれば、それは命にも関わる問題です。だからこそみんなが正しい知識を持つて検査のハードルを下げ、誰もが安心してこの病気に立ち向かえる社会を実現していかなければなりません。